

◆授業のポイント◆

- ・ 自分の考えをまとめ、価値意識をもって表現・鑑賞できる学習活動の工夫
- ・ 作品を鑑賞し、その表現意図や特徴、よさなどを読み取り、自分の言葉で説明・批評できる力を育成する手立ての工夫

美術科学習指導案

日 時 平成22年6月4日（金）1校時
学 級 3年5組（男子18名 女子19名 計37名）
授業者 教 諭 吉 野 一 弘

1 題 材 絵画・鑑賞

題材名 「風景画を楽しもう！」

2 題材について

本題材では対象を異なる視点でとらえ直して見ることや、そこから独自の表現を工夫することを主なねらいとしている。自分の表したい思いをより効果的に表現していくために、構図や構成を考え、彩色を工夫していくことは自己表現や自己実現のために欠くことのできない大切な学習である。また、真に造形表現を自分の言葉にしていくためには、さらに単純化や強調といった表現上の工夫も必要になる。自分の思いや考えをよりの確に表現する題材の一つとして、本題材がその契機となるように考え、本題材を設定した。

第3学年は、自然物や事象に対して自分なりの客観的なものの見方や考え方が確立してくる時期である。対象を感覚的にとらえるだけでなく、自分なりの価値観でとらえ、表現方法を工夫して表す行為には、対象を深く見つめることが不可欠である。また、対象から感じ取ったことを基に、主題を発想し造形的な構成を工夫することは、表現の学習には欠かせない大切な学習でもある。毎年スケッチ大会を通して風景画の学習に取り組んできたが、アンケートから下描きの描き方、遠近感、配色、水彩技法など、思うようにできないと感じている生徒がほとんどであった。今回、3年最後のスケッチ大会を前に基本を丁寧な指導し、2学年時よりもレベルアップした制作ができるようにしたい。

構図のとり方については、風景の写真や参考作品などを利用して画面への入れ方を判断させ、新しい視点に目を向けさせたり、水彩技法を取り入れた表現方法を工夫させたりしたい。そして概念的な見方やとらえ方を脱して創造的、構成的な創作活動が展開できるように指導する。さらに視点の変化や方向による見え方の変化に注目させ、新しい視点で創造的に対象をとらえさせる。また、鑑賞資料として表現のさまざまな例を示し、感性や想像力を働かせながら、作者の表現意図や作品の特徴、よさなどを読み取らせて、表現の工夫について理解させる。加えて、写実的に描けないためにすぐあきらめる生徒が多いので、描写力が成長過程の途中であることと、描写力以外にも主題、構図、配色、タッチなど、色々な要素が関連して総合的に作品が出来上がることを理解できるように導きたい。

国語科の言語活動と関連付けて、2年生で学習する「話すこと・聞くこと」の「調べて分かったことや考えたことなどに基づいて説明や発表をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること」を用いて、筋道を立てて説明する力の育成を図りたい。

3 題材の目標

- (1) 自分の思いを託す風景を選び、効果的に描くことができる。
- (2) 主題を明確にしながら、周りの情景の配置や部分の強調、省略をして構図を練り、新しい視点を取り入れながら彩色する。
- (3) 表現方法にふさわしい技法を生かし、的確に表現することができる。
- (4) 自他の作品の技法の工夫を味わい、それらを大切にできる。

4 指導計画（全13時間）

項	時間	学 習 内 容	言語活動との関連
アンケート実施 見え方の変化 作品鑑賞	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2学年時までの絵画についてアンケートを実施し、3学年時の目標を考える。 ・ 視点の変化により見え方が変わることを学ぶ。 ・ 一点透視、二点透視を学ぶ。 	
作品鑑賞 構図の工夫・水彩 の基本	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品や参考作品を鑑賞し、制作への見通しを立てる。 ・ 構図の工夫（縦構図・横構図）、描く視点 ・ 水彩の基本や技法 	説明
作品鑑賞 スケッチ練習	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 描く主題を決め、構図の工夫、遠景・中景・近景、多様な種類のモチーフの組み立て、単純化を考慮する。 ・ 遠景の色（薄く）を全体的に入れる 	
スケッチ大会 下絵完成	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ その場から感じる雰囲気を表すことを考え、主題を決め、下描きを完成させる。 	
鑑賞作品の分析 彩色計画	1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞作品を分析し、自分の言葉でまとめたり発表したりする。 ・ 作者の表現意図や作品の特徴、よさなど、表現の工夫を味わう。 	説明 批評
彩色表現の工夫 (雰囲気) (感動した色) (一瞬の景色) (鑑賞)	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主題を確認し、それに合った主調色を中心に色を置く。 ・ 遠景の色を薄く全体的に表現する。 ・ 遠景以外の場所を中景の色の濃さで表現する。 ・ 近景を細かく表現する。質感を出す努力をする。 ・ 作品を鑑賞し、成果と課題を確認する。 	

5 本時の実際（8 / 13）

(1) 主題 「彩色計画を立てよう！」

(2) 目標

- ① 意欲的に鑑賞作品を分析し、自分の言葉でまとめたり発表したりすることができる。
- ② 作者の表現意図や作品の特徴、よさなど、表現の工夫を味わうことができる。
- ③ 鑑賞作品を分析し、自分の価値意識をもって彩色計画を立てることができる。

(3) 授業設計の工夫

① 自分の考えをまとめ、価値意識をもって表現・鑑賞できる学習活動の工夫

鑑賞作品を分析し自分の言葉でまとめることができれば、今までよりも自分の価値意識をもって見通しをもたせ、絵画表現に導くことができると考えた。また自分の言葉でまとめたことを発表することで、友達の仕事の見方を知ることができ、制作者の表現意図や配色、表現技法を考え助言できる力が付くのではないかと考えた。

② 作品を鑑賞し、その表現意図や特徴、よさなどを読み取り、自分の言葉で説明・批評できる力を育成する手立ての工夫

鑑賞作品を鑑賞することで、表現意図や特徴、よさを読み取ることができ、「鑑賞の手引き」を参考に自分なりの言葉で説明したり、好きな作品の理由を述べたりすることで、自分の価値意識をもった言葉で説明・批評できる力につながると考えた。また、その結果自分の作品の彩色計画や制作イメージに関連付けることができると考えた。

(4) 展開

過程	時間形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※指導のポイント
導 入	3分 一斉	1 課題テストをする。 2 前時の確認をする。	・ 課題テストを3分間で取り組む。 ○ スケッチ大会の下描きが完成し、次は彩色へ移る段階であることを確認する。
	3分 一斉	3 鑑賞作品を鑑賞し、彩色計画への見通しをもつことが目標であることを理解する。 新しい視点を生かした彩色計画を立てよう！	○ 鑑賞する際、自分の価値意識をもって対象をとらえ分析することで、自分の彩色計画への見通しをもつことをおさえる。
展 開	7分 個	4 鑑賞作品を各自分析する。	○ 5分間で「鑑賞の手引き」を参考にまとめさせる。 ※ 作者の表現意図や作品の特徴、よさなどを読み取らせる。 ◎ 鑑賞作品を分析し、自分の言葉でまとめることができたか。
	10分 グループ	5 グループで自分のまとめを発表し合い、グループとしての分析をまとめる。	○ 自分と異なる見方や考え方、感じ方の発表があれば、メモをさせる。 ※ 外のグループから反対意見がないか、その場合はどう判断するかなど考えさせながら、質問や批評にも対応できるようにする。

展 開	12分 一斉	6 グループでまとめたことを代表が発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 異なる鑑賞作品の分析内容を発表させる。 ○ 自分の価値意識を基に、発表者の意見と異なる見方や考え方、感じ方を探させる。
	5分 個	7 ワークシートに彩色計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の下描きを見て、スケッチ場所の雰囲気や自分のイメージをまとめ、鑑賞作品の分析内容を参考に、彩色計画を立てさせる。 ◎ 自分の価値意識を基に彩色計画を立てることができたか。
	5分 一斉	8 彩色計画を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の彩色計画を、理由を加えて説明させる。 ○ 他者の発表から、参考にできることをメモをさせる。
終 末	3分 個	9 自己評価カードに授業の成果を記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の態度を振り返らせる。
	2分 一斉	10 本時のまとめと次時の内容を確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の彩色計画から、水彩絵の具で遠景から大まかに彩色することが基本的なスタートであることを伝える。